



患者構成の指標

<項目解説>

各病院の患者構成を視点とし、治療の難しい疾患（診断群分類点数表の入院期間Ⅱが長い）をより多く診療していることを評価します。

DPC/PDPSの入院期間Ⅱは全国平均の在院日数+1日ですが、入院期間Ⅱが長いほど退院までに日数を要し、一般には治療の難しい状態の疾患であると考えられます。例として、脳腫瘍や頭頸部腫瘍の化学療法、出生時体重1,500g以下の新生児等では入院期間が長くなります。

この指標は加重平均として自院の全体像を示すもので、数値は1.0が全国平均となります。1.0よりも大きい方が、より難しい状態の疾患を多く見ていることを示します。

<当院の実績>

【平成24年度】	1.02
【平成25年度】	1.04
【平成26年度】	1.04
【平成27年度】	1.04
【平成28年度】	1.06

<当院の自己点検評価>

当院は全国平均の1.0を超えていることから、治療の難しい疾患をより多く診療していることがわかります。

今後も引き続き、十勝圏域の地方・地域センター病院として、安全で良質な医療を提供していきたいと考えております。

<定義>

- ・厚生労働省DPC評価分科会の公開データ

<算式>
